

わかやま

No.23

和歌山県精神保健福祉センターだより 2005年4月

「より『身近なセンター』を目指して」

和歌山県精神保健福祉センター所長 北端 裕司

平成17年4月に和歌山県精神保健福祉センターの所長として着任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。先代の朝井忠から数え、小職で2代目になります。

皆様もよくご存知のことですが、精神保健福祉センター（センター）の業務は精神保健福祉法により以下の通り定められています。①地域精神保健福祉を推進するために専門的立場から精神保健福祉施策の企画立案を行う。②保健所、市町村および関係機関に対し、専門的立場から技術指導および援助を行う。③精神保健福祉関係諸機関の職員等に専門的研修を行い、技術的水準の向上を図る。④一般住民に対し、精神保健福祉に関する知識の普及啓発を行う。⑤精神保健福祉に関する調査研究と資料の収集整備、関係機関への情報提供を行う。⑥精神保健福祉相談のうち、複雑困難な事例に対し、積極的に関与する。⑦精神保健福祉団体の組織育成に努める。⑧精神医療審査会の審査にかかる事務局を行う。⑨精神障害者通院医療費公費負担および精神障害者保健福祉手帳の交付の際の判定を行う。このように文章にしてしまうと、センターの業務は法制定以来10年1日の如く変わりがないようにみえます。しかし、昨年来からの『改革のグランドデザイン案』、『障害者自立支援法案』をうけ、精神保健福祉サービスが大きく変化し、センターのあり方も大きく変わろうとしています。

今後、市町村を中心とする精神保健福祉サービスの提供体制を整えていく必要があります。当センターは、市町村・保健所などからの研究・調査に対する支援依頼や研修・講座等における講師派遣に積極的に応え、企画への参加・技術的な支援をこれまで以上に行い、市町村における精神保健福祉サービスを側面から強力に支えていきたいと考えています。また、『こころのバリアフリー』を目指して、一般県民に対する精神保健福祉に関する知識の普及啓発により積極的に取り組みたいと考えています。また、近年増加を続ける自殺・うつに対し、歯止めになるような啓発活動を企画したいと考えています。さらに、将来予想される南海大地震・東南海大地震などの災害時のメンタルケアの問題にも準備をしたいと思っております。現在行われている『ひきこもり支援』にも引き続き力を入れてまいります。『セルフヘルプグループ』の立ち上げにも何らかのご協力ができないか？などと夢想しております。

以上、まとまりのないスローガンのような文章になりましたが、故東雄司先生のいわれた『身近なセンター』を目指して一歩でも前に進んで行きたいと存じます。今後、長く苦しい道になるかもしれませんが、皆様と手を携え、精神保健福祉活動の責任ある一翼を担いたいと思っております。ご協力よろしくお願い申し上げます。

もくじ

- P 1 より『身近なセンター』を目指して
- P 2 バレーボール特集
- P 3 「障害者就業・生活支援センター つれもて」からの報告
- P 4 新宮保健所からの報告
- P 5 メンタルヘルスニュース
- P 6 は一とふるネットワーク「有田市役所 西川 博さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

バレーボール特集

H-16年度に開催されました精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会と近畿大会(尼崎市)に関わってくださった皆さんに大会を終えての感想を伺いました。

第一回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会

～つながれ・ひろがれ・ボールとともに！～

和歌山県作業療法士会 川口 夏生

平成16年11月4日に開催されました第一回精神障害者ソフトバレーボール大会に私たち和歌山県作業療法士会は共催団体として大会運営に関わらせていただきました。爽やかな汗をかき、ボールに向かって全力で走り、ミスした仲間に「大丈夫やで！」と大きな声を掛け合う、勝っても負けても笑顔でお互いのチームを称えあう選手の皆様の姿を拝見し、あらためてスポーツの素晴らしさを実感しました。

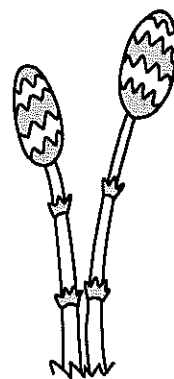
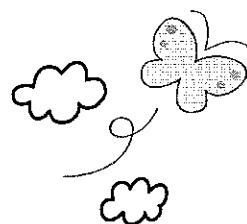
また大会までの練習、ユニホームを揃えたり作戦を練ったりと大会当日までに多くの準備をされたチームも多くありました。

私が所属する県立こころの医療センターデイケアチームも練習を重ねましたが、残念ながら予選敗退でした。しかし「次こそは！」と意気込んでおります。

スポーツはプレイする事以外にたくさんの人を感動させる要素が詰まっています。試合当日の朝に「バレーなんて出来ないわ～」と自信なく話していたある選手から、「よかった！こんな大会を催してくれてありがとう。」と、試合終了後にかけていただいた一言が強く印象に残っています。優勝したことによる感動、試合に負けたことで得られた感動、仲間と喜び励ましあった感動…。

これらの感動をさらに多くの皆様へ伝えるために、今後もこのようなスポーツ大会が開催されますことを願っています。私共も微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。

最後になりましたが、選手・チーム関係者の皆様、試合の審判やルール説明を親切丁寧に行なっていただいた和歌山県バレーボール協会の皆様、大会運営にご協力いただいたボランティアの皆様、ありがとうございました。また今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



近畿大会に参加された 田村病院デイケアメンバーさんからの感想



- ・バレーみんな上手で楽しかったです
- ・たのしかった
- ・尼崎はじめていったけど、工場が多くて、試合に負けたのがくやしい。
- ・日頃の成果を十分に発揮できず予選リーグで敗退は残念。今回のくやしさをバネに今後は巻き返し。屈じょくを晴らす為優勝目指してグレードアップ！！
- ・おもしろかったですよ、去年。今度はゆうしょうする、なんちゃって。院長先生が全国大会までついてきてくれるやくそくです。
…バスでプレーオフが開けてうれしかったです。
…おもしろかったですよ、旅行と思てよかったです。
…キャプテンより

精神障害者バレーボール近畿大会に参加して

今回、援助いただいたことで、応援のための用意が出来たり、昼食もおいしくいただけたり、バスでみんな一緒に移動できました。特にバスでの移動では、カラオケしながら楽しく行けたので団結感が強まり、また、スタッフも安心して同伴することが出来ました。大会では、メンバーさんたちも大きな大会ということもあって、少し緊張もされていましたが、日頃の練習の成果を思い切りぶつけてがんばり、ベンチにいたメンバーさんたちやスタッフも一丸となって一生懸命応援しました。結果は残念でしたが、メンバーさん、スタッフともども、近畿大会に行ったことがとてもステキな思い出となっております。本当にありがとうございました。

田村病院 DCスタッフ一同

このコーナーでは、県下の社会復帰施設を紹介します。
今回は、和歌山市にある「麦の郷就業生活支援センターつれもて」です。

麦の郷就業生活支援センターつれもて

今、国会では障害者雇用促進法の一部改正が図られています。(施行は2006年4月1日、一部05年10月1日)。目玉は精神障害者の雇用率換算です。ようやくの感がありますが、250万人とも言われる日本の精神障害を持つ方にとって朗報です。

さらに注目したいのは障害福祉施策との連携の一事業として就業生活支援センター事業の拡充が位置づけられていることです。現在全国で80ヶ所が活動しており、今年度90ヶ所、その後、全国120ヶ所まで拡げたいとの事です。

障害者自立支援法の中の就労移行支援事業と並ぶ事業に位置づけられました。



つれもて登録者の現況

2004年4月～05年3月つれもて登録者(累計)内訳(人)					
障害	就労中	基礎訓練	求職中	その他	計
身体	2	4	4		10
知的	10	6	3	1	20
精神	16(4名退職)	15	13	8	52
計	28	25	20	9	82

今年度の登録者は表のとおりです。就労27名の内、今年度就労したのは21名。そのうちの5名は自力で職を探し、定着しました。職種は、事務職・ファーストフード店員・食品加工・ホームセンター店員・クリーニング工場・喫茶店洗い場調理補助・特別養護老人ホーム清掃・高齢者デイサービス介護補助など、製造業よりもサービス産業での雇用になりがちです。障害者雇用促進の各制度は事業所側の負担を軽くするので就職に有効でした。一方、退職者は3月時点で4名、内1名は職場の関係が悪化し退職、家業の食堂を手伝うことに、1名は仕事についていけず再度共同作業所に、1名が解雇され求職活動中、1名は入院のため。和歌山労働局によると今年度の障害者就職者数は277人(05年3月中旬現在)とのこと、「つれもて」の果たす役割の大きさを実感しています。

職探しについて

「つれもて」は、ハローワーク求人掲載事業所、新聞広告、求人誌を使い、事業所に対して障害者雇用を打診しますが多くは電話段階で断られ、上手く面接にこぎつけても採用ないし実習を受け入れてくれるのは珍しいことです。少ない可能性の中で、それでも1人、2人と就労に結びつく事実も生まれていますから事業所開拓にはためめ挑戦が求められます。障害当事者にとって、数ある就職口の中で自分の希望する職種を選ぶことが、そもそも大変難しいのだと再認識しました。自分自身が就職活動の主人公となって支援を得ながら職探し、職場定着を果たすために「つれもて」の役割を常に考えさせられています。紀南障害者就業センター北山氏は「自分で決定できなくて当たり前、経験が無い中で選べることは無い。トライアンドエラーのとおり、支援側は何度も挑戦して失敗を恐れない、その中で本人の自覚がすすむ」といいます。主体性の尊重と「つれもて」のリードとの兼ね合いは微妙です。

関係機関と連携しての支援

以前から麦の郷と協力関係のあった特別養護老人ホームへ精神障害の登録メンバーを2人ペアで採用を前提に実習を依頼した件では、実習段階から障害者職業センターのジョブコーチに入ってもらいました。職業センターとは実習後の採用の際にも2人の働き方、活用可能な制度を事業主に的確に示していただくなどの連携が功を奏しています。4月からは3人目の精神障害者の採用

となる新メンバーが実習に入っています。ハローワークとの関係では実習を引き受ける事業所探しを「つれもて」としてもハローワーク情報から行うなど連携が進みました。和歌山県が今年度新たに障害者就労支援事業(ジョブサポーター養成・派遣事業)を独自に行うこととして、NPO和歌山県精神障害者家族会(わかれん)に委託しました。これを受けて「わかれん」は就労支援者(ジョブサポーター)の養成と派遣、協力企業開拓を進めています。「つれもて」の登録者の職場実習や就労への道を切り開く仕事を共に行っていきます。

まだ支援は緒に就いたばかり

「つれもて」の仕事の力点、現時点では協力事業所の拡大といわざるを得ません。職に就けなく待機しているメンバーが数多いからです。実習先の確保と実習体験は障害当事者と事業所の双方にとって就労定着のためには特に重要です。社会参加ハビリ事業と社会福祉法人への委託訓練制度、トライアル雇用の3つを活用しきることです。トライアル雇用の和歌山県の活用枠は昨年度は62名分でした。活用後の職場定着率も80%を超えて抜群です。同様に効果的なジョブコーチ事業の併用によって高定着率を実現できます。

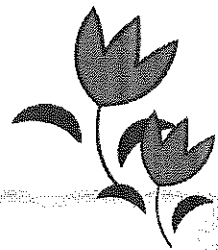
06年10月から始まる就労移行支援事業(利用は有期限)と共同して「つれもて」の登録メンバーが利用できるように進めたいと考えています。私たちの考える就労移行支援事業の条件としては第一に、トレーニングを必要とするメンバーにその場を臨機応変に提供できる内容を持つこと、第二にトレーニングとってその間を無給で行うのではなく、少なくとも報酬を支払うものであること、第三に、確実に次につなげるマネジメントを伴い、何度も利用できるようにすることなどです。そのためには企業からの協力・提携がもたせられますし事業が応益負担を伴うことでメンバーが利用制限することの無い対策を講じる必要も生まれるでしょう。

厚生労働省は05年度の新規事業に「地域障害者就労支援事業」を全国で10ヶ所指定しました。これはハローワークを核にして関係機関の連携で個別のマネジメントを行い成果を挙げる取り組みです。和歌山でも実施したいものです。皆さん方と共に職場開拓と働きたい障害者の願いに応える応援を広げたいと思います。

(加藤 直人)

平成17年度 新宮・東牟婁管内 精神保健医療福祉ネットワーク事業のご案内

(仮称 なんとかしよらネットワーク)



経過

新宮・東牟婁地域には、約45年前に設立された民間の精神科病院と平成7年と14年に作られた2つの障害者小規模作業所といった精神障害者を支える社会資源があります。

その他にも、家族会やボランティア団体といった人的なネットワークもあります。

平成17年3月に、こういった関係機関が点ではなく線としてのネットワークを構築するために、また一般県民にもこころの病について理解してもらうことを目的とした「こころのフェスタ in 熊野2005」を開催しました。

そこに参加された方々から「もっとこの地域を精神障害者が住みよい地域にしてもらいたい」「もっと関係職種の学習の機会を与えてほしい。」と様々な要望を聞くことができました。それを受けて、まずは、精神障害者も家族も支援者も一般県民も垣根無く参加できる学習会を札幌大通公園メンタルクリニックの山田秀世先生の無償の支援を得ながら企画をしました。このネットワーク事業を通して、「参加者が元気になり、その結果、有効なネットワークができる」ことができたかと思っています。

どうぞ県内だけでなくお隣の三重県の方も歓迎します。是非ご参加ください。

(なお、ご参加される方は前もって事務局までご連絡お願いします。)

参加者

- 1 学習会
精神保健医療福祉に関係する者
(職種としてでも、プライベートとしての出席
どちらでも可能)
- 2 業務連絡会
新宮保健所管内の精神保健医療福祉に関係する者
(職種としてでも、プライベートとしての出席
どちらでも可能)
- 3 事例検討会
新宮保健所管内の精神保健医療福祉に関係する者
(ただし、当事者及び家族会会員は除く。)
→2・3については守秘義務厳守です。

日時

原則 毎月第2土曜日

場所

東牟婁振興局3階大会議室
(第4回：7月9日のみ地下会議室)

内容

- | | | |
|-----|----------------|-------------|
| 1 | 午後 1:30 ~ 3:00 | 学習会 |
| | 午後 3:00 ~ 3:15 | 休憩 |
| 2・3 | 午後 3:15 ~ 5:00 | 業務連絡会・事例検討会 |

→2・3については定例ではなく随時実施します。

1. 学習会の内容 (予定)

「やさしいメンタルヘルス講座 (初心者や家族向け)」

～こころとからだの健康について考えてみよう～

講師 札幌大通公園メンタルクリニック 山田 秀世さん

- | | | |
|--------|-------------|----------------------|
| (第1回) | 4月 9日 (土) | 「いちばん基本的なことについて」 |
| (第2回) | 5月 14日 (土) | 「疾患そのⅠ (統合失調症)」 |
| (第3回) | 6月 11日 (土) | 「疾患そのⅡ (うつ病その他の病態)」 |
| (第4回) | 7月 9日 (土) | 「苦況における笑い・ユーモア・楽観主義」 |
| (第5回) | 8月 13日 (土) | ・・お休み・・ |
| (第6回) | 9月 10日 (土) | 「県精神保健福祉協会シンポジウム」 |
| (第7回) | 10月 8日 (土) | 「集団精神療法について」 |
| (第8回) | 11月 12日 (土) | 「家族療法について」 |
| (第9回) | 12月 10日 (土) | 「新しい心理療法そのⅠ」 |
| (第10回) | 1月 14日 (土) | 「新しい心理療法そのⅡ」 |
| (第11回) | 2月 11日 (土) | 「精神医学の幸福論」 |
| (第12回) | 3月 11日 (土) | 「まとめ・振り返り」 |

→日時変更する場合があります。

2. 業務連絡会

各関係機関 (個人でも可能) の情報交換会とします。

3. 事例検討会

前もって事務局に提出してもらった事例 (特に関わりの難しい事例) についての事例検討会及び個別相談とします。



事務局

新宮保健所生活福祉課
長島・土橋

連絡先

新宮市緑ヶ丘2-4-8
TEL 0735-21-9610
FAX 0735-22-6225



県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

◆紀南障害者就業生活支援センターが移転しました

紀南地域を中心に障害者の就業、生活支援の拠点となっている同センターは下記の住所に新築移転しました。

〒646-0061

田辺市上の山2-23-52

◆医療法人芳純会

みさきメンタルクリニック開院

JR串本駅前新しく精神科クリニックが開院しました。

〒649-3503

西牟婁郡串本町串本2113-2

電話0735(69)2888

◆社会保険紀南総合病院新庄別館の名称が変わります。

5月1日より名称が紀南こころの医療センターとなります。また、今年度より小野紀夫院長が就任されました。

♡こころの健康講座

テーマ:「もし家族がうつ病になったら」

一般県民を対象とした講座を2月8日(火)紀南文化会館(田辺市)にて開催しました。昨年8月の紀北講演に引き続き、篠崎和弘教授(和医大)にうつ病とその対応についてご講演いただきました。治療薬を用いた気長な治療の大切さとうつと自殺の関係についてお話いただきました。紀南地域でもうつについては関心が高く、120人の参加がありました。

♡思春期精神保健福祉研修

1月22日、昨年度に引き続き講師に田中康雄教授(北海道大学大学院)を招き、「思春期の子ども達に対する地域精神保健活動～様々な適応障害への対応～」をテーマにご講演いただきました。講演の中では、今時の子ども達を取り巻く社会情勢と子どもが求める支援者、軽度発達障害、地域に根ざした包括的な支援体制についてお話をいただきました。具体的でわかりやすいお話で、「もう一度ききたい」といった感想が多く聞かれました。参加者は教育関係者、行政関係者を中心に83名。今回は田辺保健所・思春期精神保健地域サポートネットワークと共催し、西牟婁振興局にて開催しました。

♡こころのフェスタin熊野2005

「みんなで語ろうこころの病について」をテーマに、3月5日(土)那智勝浦町福祉健康センターにて紀南で

初めてのフェスティバルが開催されました(主催:新宮保健所・新宮保健所古座支所・精神保健福祉センター)。第1部は元ハルシオンの塚本正治さんのコンサート、第2部は札幌大通公園メンタルクリニック院長の山田秀世先生を指定発言者に地元の当事者、家族会、ボランティア等を迎えてのシンポジウムが行われました。各々の主張がよく伝わるシンポジウムでした。会場いっぱい130人もの市民や当事者、家族、関係者が集まりました。こころの病を抱えて生きていく方々のバイタリティと東牟婁地方の社会復帰資源の充実を切実に考えさせられた集いとなりました。

♡セルフヘルプセミナー&出会いミーティング

精神保健関連の自助グループの周知と育成を目的に、上記のセミナーを3月26日ビッグ愛にて開催しました。第1部では元日本ダルク事務局長の和高優紀氏が「あなたはひとりぼっちじゃない～生きづらさを抱えているあなたへ～」のテーマで自助グループとの出会いの大切さを講演。第2部では、摂食障害者・精神障害者・アルコール依存症者・性同一性障害者の自助グループの代表者によるパネルディスカッション。第3部は各自助グループに分かれての出会いミーティングが行われました。当センター初の試みでしたが、自助グループと一般県民をつなぐよい機会を提供できたと思います。今年度も当センターでは自助グループの育成に取り組んでいきたいと思っています。

■第40回日本心身医学会近畿地方会

が和歌山で開催されます。

日時:7月16日(土)

場所:ダイワロイネット和歌山

メインテーマ:ひきこもり

■第52回近畿学校保健学会

が和歌山で開催されます。

日時:7月30日(土)

場所:和歌山ビッグ愛

メインテーマ:不登校、ひきこもりからの脱出

◇◇◇◇センター職員が変わりました◇◇◇◇

3月末日をもちまして朝井(前)所長と主に公費負担・手帳事務を担当しておりました本松さんが退職されました。新たに北端所長、北さんが着任されました。今年度は障害者自立支援法の導入を迎え例年以上に忙しい年度になります。所長を含めて職員5名、事務補助1名、精神科病院協会1名の小さなセンターですが、力をあわせてがんばっていきます。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、有田市役所の保健師、西川博さんです。

はーとふるネットワーク



- 有田市に就職されて何年になりますか？
今年で4年目になります。
- 保健師として有田市でどのようなお仕事をされていますか？
地区分担では、乳幼児から高齢者、また様々な障害や生活上の困難を持つ方々に関わらせて頂いています。業務分担では主に老人保健を担当していますが、乳幼児健診や予防接種などもクマのプ〜さんのエプロンをつけてがんばっています。
- この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？
精神障害(他の障害でもそうですが)では、本人さんはもちろんですがそれ以上に家族の人がしんどい思いをしている場合もあります。そんなケースと相談や訪問で関わっていく中で、少しずつ元気を取り戻してきたり表情が明るくなってきた時。こんな自分でも少しはお役に立てたかなと、嬉しくなります。
- 仕事で苦勞する点はどのようなことですか？
家族の方が障害を受け入れられずに本人さんが孤立してしまっているようなケースでは、自分が保健師としてどのように関わっていけばよいのか考えさせられます。

- 有田市のPRを一言お願いします。
有田市といえば『みかん』が有名ですが、歴史的な寺社や有田川での鵜飼など観光地としての魅力もたっぷりです。特に鵜飼は「徒歩(かち)漁法」と呼ばれる古来からの漁法で、日本では有田川にのみ継承されているものです。これからの時期がシーズンですので、みなさま、是非ご覧あれ。
- 休日はどのようにして過ごされていますか？
冬場は暇さえあれば雪山で雪とたわむれています。それ以外の時期は、ドライブしたり温泉巡りをしたり映画を見に行ったり(落ち着きがないというか活動的というか)。
- 今後の抱負を教えてください。
とにかく今は、色々な事を覚え前進あるのみです。がんばります。
- 西川さんから、次の方のご紹介をお願いします。
看護学校からの友人である医療法人宮本会紀の川病院の看護師加藤博之さんを紹介します。
彼には学生の頃から勉強やプライベートに大変お世話になっており、また雪山遊びの師匠でもあります。研修会で一緒になったり、時々お家にお邪魔してお酒を酌み交わしたりもしています。

研修のお知らせ

今年度も、精神保健福祉センターでは様々な研修会を企画しています。
5月～7月の研修・講演会をお知らせします。

- SST研修
(SST普及協会和歌山SST研究会と共催)
日時 5月28日(土)
対象 精神保健福祉従事者
場所 和歌山ビッグ愛
※ 〆切は4月末日です
- ひきこもり関連研修
日時 6月3日(金)・10日(金)
対象 ひきこもり相談等に従事する保健・福祉医療関係者
場所 和歌山ビッグ愛
- セルフヘルプセミナー
講演 「セルフヘルプグループって何？
— 人々がそこに求めるもの —」
講師 松田 博幸氏
(大阪府立大学人間社会福祉学部助教授)
・パネルディスカッション
「私とセルフヘルプグループ」
・出会いミーティング
日時 6月18日(土) 午後
対象 一般 場所 和歌山ビッグ愛
- 思春期精神保健研修
(和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会と共催)
講演 「思春期のこころ」
講師 宮西 照夫氏
(和歌山大学健康管理センター所長)
日時 6月25日(土) 14:00～
対象 一般 場所 和歌山ビッグ愛
- 精神障害者訪問介護員講習会
和歌山会場
日時 6月29日(水)
場所 和歌山ビッグ愛
新宮会場
日時 7月22日(金)
場所 東牟婁振興局
※ 各会場で後日、実習(1日)があります。
対象 市町村の指定及び委託を受けている事業所(予定も含む)に勤務するホームヘルパー又は介護福祉士の資格を有する者
- 精神保健福祉新任者研修
日時 6月20日(月)・21日(火)
対象 精神保健福祉業務に従事し、経験が概ね5年未満の者
場所 和歌山ビッグ愛
- 市町村職員研修
(7月開催予定※詳細が決定次第ご案内します。)
対象 精神保健福祉に従事する市町村職員

編集後記

寒かったり暑かったり天候の不順な春です。そんな中、ゆっくり花見をする間もなく桜もあっという間に散ってしまいました。和歌山城ではツツジが燃えています。当紙の編集に携わり「あれよあれよ」と1年が過ぎました。年4回の発行に息切一年でした。編集を通してたくさんの方々とおめぐり会い、「つながり」を実感しています。お忙しい中ご寄稿いただいた皆様、ありがとうございました。読者の皆様、今年度も「わかやま」をよろしくをお願いします。